

福祉 ぐんま

NO.235
2011 冬号

 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会



■主な内容

- * 特集 地域福祉活動計画の実際・・・2～3
- * ぐんまボランティアフェスティバル 利根沼田ブロック開催・・・4
- * 年頭のごあいさつ・・・5 * ハートtoハートミュージックフェスティバル・・・5
- * ボランティア情報・・・6 * 社会福祉協力校・・・7
- * 素敵な笑顔・・・8 * 人材定着支援アドバイザーの立場から・・・8 * 福祉まめ知識・・・8

六郷保育園保育士
清水 鮎美さん
(関連記事は3ページに掲載)

「福祉ぐんま」の作成経費として共同募金配分金を使用しています。

特集

地域福祉活動計画の実際

前回は、地域福祉活動計画とは何か、又、なぜ作る必要があるかなどについて、概略を掲載させていただきました。今回は、実際に昨年3月に地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に策定した桐生市とみどり市について、桐生市社協とみどり市社協からお話を聞きしました。

桐生市社協からは策定過程と新たに生まれた事業について、みどり市社協からは基本計画(計画の柱)と具体的に推進する地域福祉事業についてご説明いただきました。



桐生市地区別懇談会

桐生市の地域福祉活動計画作成について

Q1 計画の作成経緯は?

桐生市は平成20年4月より行政と一緒に勉強会を開催し地域福祉計画と地域福祉活動計画を合同で作成することとなりました。

※桐生市では計画を作る段階で住民からの意見により「作成」という言葉を使用することになりました。

Q2 計画の作成経過は?

1回目の計画作成委員会は平成20年10月に開催し、計画についての共通理解を図りました。計画作成委員のメンバーは、区長、民生委員、市議会議員、医師会、歯科医師会、学校関係、青年会議所、各種福祉関係団体、公募市民等、市内の様々な分野の25名の方々で構成され、完成まで約一年半を要しました。

Q3 計画の作成手順は?

平成20年12月より市内居住の18歳以上の市民3,000人を対象に地域福祉に関するアンケート調査を行い、その後、市内15か所の公民館を単位に地区別懇談会をそれぞれ2回ずつ開催しました。

1回目は各地域からニーズを挙げて貰い、そのニーズを「行政にお願いしたいこと」、「社協にお願いしたいこと」、「ボランティア・NPOにして

貰いたいこと」、「自分達が行うこと」等で整理していきまし

た。2回目は、各地域から出されたニーズも参考にしながら類型ごとに分類し、解決を図るための柱を考えました。

そうした住民からの声やアンケート調査の結果を出発点として、行政と社協の検討委員会が集約し、計画作成委員会の中で全地域共通の計画として作り上げていったものです。

Q4 計画により新たに生まれた事業は?

桐生市では「地区別懇談会」において、生活課題に対する解決策として「地域で『見守り・声かけ』などを行い安全を確保する」といった意見が第1位になっています。

そのため、高齢者等の孤独感を解消するとともに、日常生活に支援が必要である方々を対象に「見守り活動推進事業」を新たに実施し、事業を通して地域のネットワーク化に取

り組み、誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進したいと考えています。

Q5 計画を作成してわかったこと・感想

社協の活動は、職員が地域に向いて、住民の中に入って様々な話や課題を聴くことから始まるのが本来のスタイルであり、それがいかに大切かを実感できました。

地域福祉活動計画は、住民の声やニーズを始まりとして、積み上げていくものです。その地域福祉活動計画に基づき



桐生市地域福祉計画・地域福祉活動計画

社協が地域福祉を推進することとは、事業に根拠が生まれるだけでなく、住民の参加が不可欠な地域福祉活動への協力も得やすくなるものと思われ
ます。

今後、計画を進める中でも更に様々な生活課題が出てくる
ことが予想されます。そうした時に、今回の経験から事業を通して懇談会を開催し、住民の声の下、活動を進められればと考えています。

みどり市の地域福祉活動計画策定で新たに生まれたもの



みどり市地域福祉計画・地域福祉活動計画

Q1 基本計画(計画の柱)はどういった経緯で決めたのですか?

みどり市では地域福祉活動

計画の策定を通して、「まずは何から…」といったときに、希薄になった人と人とのつながりを、もう一度築いていく所から始めました。

「みんなが輝く どんときもささえあえる 理想のまち」をキャッチフレーズに、人とのつながりは、まずは「あいさつ」から。一見、ありふれたことに見えますが、誰にでもわかりやすく、身近にできることです。

案外こうした所から交流が生まれ、「みんながささえあえるまち」の基盤となるのかもしれない。

Q2 計画策定を通して、協として進める地域福祉事業はどんなことから始めるのでしょうか?

みどり市は旧3町村が合併してきており、昔ながらの交流は残っているが高齢化が進み、隣近所との距離が離れていて、日常的な生活に不便を感じている所や、都市部で近隣とのつながりが弱く、災害や何かあったときの助け合いや協力体制が問題となっている所等、地域によって抱えるニーズや特色もまちまちです。

こうした中で、全市一律に事業を進めるには無理があります。

地域福祉を進めるには、地域特性をベースに日常的な生活圏域で「ささえあえる仕組みづくり」が必要です。そこで、みどり市社協では人口約52,000人のみどり市を32行政区単位にわけ、その中から何かあったときの連絡役となる方をお願いし、ささえあえ、助けあえる住民の基礎組織づくりから始めよう

と思っています。その基礎組織をみどり市では仮に「福祉部」といった名前と呼ぼうと考えています。

「福祉部」には自治会関係者は勿論、地域の福祉関係団体、当事者、学校関係者等、様々な地域の方々に参画をいただき進めていただきたいと考えています。

おわりに

社協は、元々住民主体を旨として、様々な地域活動やボランティア活動への参加、福祉教育、まちづくりといった「住民参加」を通して地域の多様なニーズや福祉課題の解決を図る活動を展開してきました。地域福祉活動計画づくりは、「住民参加」と「課題解決」を具体化するためのまさに仕組みづくりであり、地域福祉



みどり市地域別懇談会



みどり市計画策定委員会

推進の中核的団体としての社協の力量が問われています。

桐生市、みどり市の地域福祉活動計画の理念には「ささえあえる」という言葉が共に使用されています。誰もが、老いますし、病を持つこともあります。そんな時に、「家族」でも医療保険や介護保険等の公的な制度でも対応が難しくなってきた暮らしのニーズに、自分達で考え自分達で参加する子どもからお年寄りまで支えあえる一番身近な仕組みとして、「地域福祉活動計画」は位置づけられるのではないのでしょうか。

ぐんま ボランティア フェスティバル

テーマ 笑顔のかけ橋
～一人じゃないよみんないる～

利根沼田
ブロック

10/3
2010



ぐんまボランティアフェスティバル 利根沼田ブロック開催!!

「ぐんまボランティアフェスティバル利根沼田ブロック」(同ブロック実行委員会、県社会福祉協議会、県ボランティア連絡協議会主催)が10月30日、沼田市の「利根沼田文化会館」を会場に開催され、群馬県助産師会・会長の鈴木せい子さんの講演会を始め、5つの分科会などさまざまな催しが行われました。

《ボランティアによる手 作りの企画》

本フェスティバルは、平成18年11月に開催された『第15回全国ボランティアフェスティバルぐんま』大会での成果を継承し、平成19年度より、本県の地域ボランティア活動の振興を図るため、県内5つのブロックを持ち回りしながら開催し、本年度で第

4回目となりました。

当日の運営については、地元ボランティアをはじめ、青年会議所など幅広い分野の人間が積極的に協力し合い、雨天にもかかわらず晴天時と同じ勢いで地域住民の力を結集することが出来たことが、今大会の特徴でありました。

《ボランティア・市民活動の新たなつながりを目指して》

大会テーマの「笑顔のかけ橋」は、『第15回全国ボランティアフェスティバルぐんま』から継承しており、サブタイトル「一人じゃないよ みんないる」は、公募により決定したものです。また、ポスター・チラシの原画など様々なものが、『地域住民発』の手作りのものとして行われた大会でもありました。

記念講演では、鈴木さんが「生きてるだけで百点満点」を



群馬県助産師会会長鈴木せい子さんによる記念講演

テーマに講演を行い、いのちの現場からのメッセージをとおして、子育てをしながらもつい意気込んでしまいがちな母親を受け入れてくれる温かな雰囲気をつくり出して、参加者の心温まる講演となりました。

その他にも、テーマ別の研究会である分科会や利根沼田ブロック内の社会福祉協議会やボランティア活動団体を中心として行われた「ごったく広場」では、活動紹介、模擬店などで賑わい、県内のボランティアやNPOなどが交流を深め、ボランティア・市民活動の啓発・普及の大きな機会となりました。

《「笑顔のかけ橋」を新たな地域へ》

来年度は今年度以上に、地域の特性を活かしながら、より一層の地域ボランティア・市民活動の振興の一助として、東部ブロックでの開催を平成23年9月に太田市にて予定しております。



活動紹介・模擬店で賑わう「ごったく広場」

ポスター原画及びサブタイトル
最優秀賞並びに優秀賞受賞者
ポスター

最優秀賞

宮田 栞菜さん

優秀賞

生方 優成さん

優秀賞

武井 洸貴さん

サブタイトル

最優秀賞

南雲 早希さん

優秀賞

鷹橋 れもんさん

優秀賞

宮田 由香さん

年頭のごあいさつ

社会福祉法人
群馬県社会福祉協議会

会長 宮下 智満



平成23年の新春を健やかに迎えのことと存じます。
昨年は「高齢者」をめぐって前代未聞の事件がありました。百歳以上の行方不明者が多数判明したことです。家族の絆、地域の絆もここまで壊れてしまったのかとショックを受けた人も多かったことと思います。

少子化、高齢化がますます進む中で、改めて家族の在り方、地域社会の在り方が問われています。そうした中で、正に「地域福祉の推進」そのものを活動目的とする社会福祉協議会への期待は大変大きなものがあります。「県民誰もがともに支え合い、住み慣れた家庭、地域でその人らしく安心して暮らせる地域社会」の実現をめざし、気持ちを新たに頑張りたいと思います。

県社協は、今年設立六十周年という節目の年を迎えます。人間でいえば還暦です。現在、改めて自らの存在意義と使命を見詰め直すとともに、今日的に果たすべき役割と方向性、更にはそれを實現するための具体的な事業を明らかにした「活動推進計画」を策定中です。新年度からは、この活動推進計画に基づいて社協活動を展開してまいります。厳しい環境下ですが、夢と希望を持って、明るく楽しく元氣よくやっていきたいと思います。

第18回 ハートtoハート ミュージックフェスティバル

群馬県社会福祉協議会厚生事業部会主催による、第18回ハートtoハートミュージックフェスティバルが、10月12日（火）に前橋市総合福祉会館多目的ホールを会場に開催されました。参加者は障害者施設を利用している方及び当日のスタッフ等を含め287名でした。

○開催趣旨

『歌や音楽に国境はありません。歌はいつも私たちのそばにいて、共に悲しみ、慰め、怒り、喜び、愛し、支え、励まし、勇気づけてくれます。』

この世にふたりと同じ人間がないように、私たちは障害の有無や出身、信条にこだわることではなく、お互いの違いを認め合い、ともに生きることのできる心を持ちたいと願っています。

そんな私たちの願いを音楽に託し、ひとりでも多くの方々の共感を得て、明るい社会づくりに寄与する。』ことを目的として開催しました。



ボサノバ・カサノバのお二人

○出演者

①群馬県身体障害者団体連合会から本郷理代さん、入沢幸智子さん、稲鍋道雄さんの三名による熟唱。

②喜楽会の皆さんによる演劇、銭太鼓の披露があり、楽しい演

○実施に向けた取り組み

本フェスティバルは、日頃支援業務を行っている職員による実行委員会により、協議を進めてきました。みつみね寮の腰塚委員長を中心として、実行委員自ら出演交渉を行い、計四回の会議を経て準備を進めてきました。

実行委員会では、常に利用者にとって良い音楽、楽しい音楽等を聞いていただくためにアイデアを出し合い進めてきました。現在国では、新たな制度創設に向けた検討が進められています。



ヤング・ストレンジパイさん

「障害者自立支援法」を廃止し、「制度の谷間」がなく、サ



喜楽会のみなさん

ビスの利用者負担を応能負担とする「障がい者総合福祉法（仮称）」を制定するために、内閣に「障がい者制度改革推進本部」が設置され、推進会議で議論が進められています。
本フェスティバルでは、参加された利用者の笑顔があふれ、文字どおり歌や音楽に国境がないことが共有できたフェスティバルでした。新制度も趣旨のようになることを思いつつ無事終了することができました。



喜楽会のみなさんへ花束贈呈

ボランティア情報

Hello! ボランティアセンター

桐生市ボランティアセンター



平成21年2月1日、桐生市社会福祉協議会事務局が桐生市総合福祉センターに移転し、同センターを拠点として各種事業を実施しています。

福祉体験学習では、主に小中学校の養成に応え、車椅子操作やブラインドウォーク、シニア体験などの体験学習を体験学習ボランティア『かるがもの会』の協力を得て実施しています。平成21年度は21回実施しました。

本年度も夏休みを利用し、高校生ボランティアスクールを実施しました。桐生市・みどり市在住・在学の高校生185人が、両市内の福祉施設、社会教育施設、児童館での体験、ホームヘルパーとの同行訪問などを行いました。今年の夏は特に暑さが厳しく大変だったと思いますが、体験を通じて、福祉への理解と関心を高めてくれたことでしょう。

これらの事業は共同募金の配分を受けて実施しています。社会福祉協議会と共同募金会は地域福祉を推進することを目的としています。寄附された方々の期待に応えるためにも、ボランティアセンターはこれらの事業により地域福祉を推進していきます。

桐生市ボランティアセンター（桐生市総合福祉センター1階）

〒376-0006

桐生市新宿3丁目3番11号（旧桐生市立南中学校跡）

☎0277-46-4165 FAX0277-46-4166

第16回関東ブロックボランティア活動推進連絡会議開催!!

第16回関東ブロックボランティア活動推進連絡会議が、10月7日(木)から8日(金)にかけて、ホテル木暮(浜川市・伊香保)にて開催され、関東甲信越静より、約80名の社会福祉協議会(以下、社協)のボランティア担当者が参加しました。

マごとに先進事例に学びながら研究協議を深めました。この推進連絡会議を通して、参加者同士が顔の見える関係づくりを行いながら、都県社協と市区町村社協が並列の関係に立つきっかけにつながりました。

1日目は、全国社会福祉協議会が提唱した「第3次ボランティア・市民活動推進5カ年プラン」を軸に、「第3次5カ年プランの目指すもの」とのテーマで全国社会福祉協議会・参事の園崎秀治氏に基調講演をいただき、その後のグループディスカッションでは、具体的に第3次プランを進めていくために各社協ボランティアセンターで実施している事業や課題となっていること等を意見交換し、各社協ボランティアセンターの発展に向けての活発な議論を行いました。

その上で、社協ボランティアセンターが抱える課題や悩み、情報を共有し、新たなつながりや地域での新たな発見のもと、社協ボランティアセンターが持ち味を活かし、それぞれの地域で住民同士の支え合いの輪を広げていくことを望みます。

2日目は、社協ボランティアセンターの「基盤整備」、「災害支援」、「福祉教育」、「協働・連携」の4つの分科会に分かれ、それぞれのテ



社会福祉協力校 片品村立片品南小学校

本校は、群馬県の北東にある武尊山の麓にある児童数四十三名の小規模校です。



地域の行事「十日夜」で使う「わらでっぼう」を作る

1. 福祉教育の目標

「心の豊かなたくましい児童

の育成」を目指し、地域の教育力を生かした豊かな体験活動を推進して

います。また、学校教育では道徳実践力を培うために心に響く道徳の授業を充実させるとともに学校行事の場で気力や体力の充実を図ってきました。

2. 取り組み

内容の紹介

(1) 地域の清掃活動

保護者や地域のの方と地域の清掃活動を行いました。これは、体験を通して、自分たちで自分

の地域を美しく保とうとする気持ち育てるものです。この結果、身近な地域をよりよくしようとする気持ちが育ちつつあります。

(2) 三世代交流グラウンドゴルフ大会

子ども世代（本校児童）、親世代（本校保護者）、祖父母世代（地域の老人クラブ）の三世代で一つのチームを作り、グラウンドゴルフ大会を行いました。この中でルールを守る大切さや高齢者ががんばる姿を見ることができました。この結果、周りを大切にすることが育ってきました。

(3) 生活科・総合的な学習での地域との交流

生活科（低学年）では昔の遊び、中学年ではグラウンドゴルフを通して高齢者との交流を図りました。その中で、昔の話を聞いたり、遊び方やルールを教わったりしました。普段の生活では触れ合う機会が少ない高齢者と関わることで、地域を大切にすることが育ちました。また、地域の行事である十日夜（とおかみや）に使う道具（わらでっぼう）を作る活動を通して地域に残る文化を継承していこうとする気持ちを育

(4) 花いっぱい運動

むことができました。地域の名称が「花咲」であることから、花の豊かな学校を目指して、保護者や地域住民の協力の下、花の植栽から管理を行い、いつも豊かに花の咲く学校にすることができました。このことにより、生き物を大切にすることが育ちました。

3. 3カ年の成果と課題

それぞれの交流活動を誠実にを行うことにより、高齢者・地域・自然との交流が充実したものとりました。高齢者からは、誇りをもって生きることや自然を大切にすることやゲームでルールを守る大切さを学びました。また、保護者と一緒に行った全校遠足では、地域の宝である尾瀬を守ろうとする姿を学ぶことができました。人から学び、自然から学び「心豊かな優しい子ども」を目指した活動ができました。今後これら活動の充実していくとともに、本校としてよりいっそう「育てたい子ども像」を全職員で共通理解を図りながら活動を行っていきたいと考えております。

学生ボランティアが群馬県共同募金会へ寄付 ～地域福祉のために～

「社会貢献」及び「地域福祉の推進」をテーマに、群馬県内の大学生ボランティアたちが、活動の内容を自ら考え、ぐんまボランティアフェスティバル利根沼田ブロックに出店。

その売上げを“地域福祉のために役立てて欲しい”との活動目的から、群馬県共同募金会に寄付をよせてくれた。



県共同募金会に寄付をする学生ボランティアたち

六郷保育園保育士 清水 鮎美さん

冬号表紙

素敵な笑顔



高崎市にある六郷保育園で保育士として勤務する清水鮎美さん。同時に、チアリーディング集団「WINNER☆E」のリーダーとして、さまざまなイベントで華麗な演技を披露しています。

※保育士を選んだきっかけは？

自分が保育園に通っていたころ、大好きな先生がいたんです。弟が2人いたので面倒をみていたこともあって、小学生のころから保育士になりたいと思っていました。

※このお仕事の魅力はどこですか？

子どもたちの成長を間近で感じられることです。昨日できなかったことが今日はできるようになるのを見ると、すごくうれいです。いま2歳児を担当していますが、4月の段階ではぜんぜん話せなかった子どもが、半年くらい過ぎるとお友達同士の会話が成り立ってくるんですよ。

※大変なことはありませんか？

事務的な仕事も多いのでそれが少し大変ですが、子どもたちと関わることで大変だと思ったりことはありません。去年から県社協の保育士分科会の役員と

なり、研修の企画運営などを担当していますが、とても勉強になります。

※チアリーディングも頑張っていますね。

高校時代はマーチングバンドのカラーガードをやっていた、体を動かすことが好きなんです。チアリーディングは動きも激しく危険なこともあるのですが、ひとつのイベントをやり遂げた後の達成感が最高です。

※魅力はどこなところですか？

チームでやるスポーツなので、仲間との結束力を感じられるのが魅力ですね。県内のいろんなイベントで活動しますが、イベントを経験するたびに信頼関係が深まっていきます。子どもたちも見に来てくれるんですよ。

※これからの目標は？

いつも明るく、笑顔をたやさないことを心がけています。子どもは大人の気持ちを敏感に感じ取ります。先生の笑顔が大好きな子どもたちのために、いつも笑顔で接したいと思っています。

取材日は、冬の訪れを感じさせる晩秋の寒い夜でしたが、アップテンポの音楽にあわせて演技をするメンバーの熱気で体育館はちよっぴり暖かく感じました。とびつきりの笑顔が印象的な清水さんですが、その笑顔で子どもたちの心に元気を伝えているのでしょうか。

人材定着支援アドバイザーの立場から



福祉人材課 人材定着支援アドバイザー

関口 祐子

福祉マンパワーセンターでは、就労間もない福祉・介護従事者を対象に、業務上の悩み・人間関係等に関する相談を受け付けています。また、必要に応じて相談内容を事業所にフィードバックすることにより、職員の定着を支援します。

援助を行っております。

◎自分や他者に対して「謙虚」で「誠実」でいること。

◎人の命や尊厳に関わる仕事の重みを自覚すること。

◎1人でする(できる)仕事ではないということ。

また、事業所側はどう思われているのか不安に思っていたり、職員とどうコミュニケーションを取れば良いのかわからず困っている相談者に対しては、ご本人の同意を得た上で、必要に応じて事業所側と連絡を取りながら、1人でも多くの相談者が離職せず定着できるようサポートしています。

しかし就職後、業務面での細かい気配りや職員同士のコミュニケーションが必要不可欠な現場に戸惑い、誰にも相談できないまま早期に辞めてしまうケースが多く見られます。

未経験者の新鮮な意識が、時には職員に良い影響を与え、利用者・入居者へのより良い介護へと結びつくこともあるのではないかと思います。

即戦力となる介護福祉士の受け入れと同時に、未経験者を長い目で育てていく体制作りが重要ではないでしょうか。

人材定着支援アドバイザーの立場として、未経験者に対しては、実際の福祉・介護現場の状況をよく知っていただくと同時に次の3つの点を重視して相談

福祉まめ知識

Q 「赤い羽根」は共同募金のシンボルとして有名ですが、緑色の羽根を見かけたことがあるのですがあれはなんですか。

A 「緑の羽根」は国土緑化、森林整備運動のシンボルとして、昭和25年に始まったものです。平成7年に成立された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づいています。毎年1月5日・9日・10月に行われています。

「赤い羽根」でおなじみの共同募金は、社会福祉法に基づいて昭和22年に始まったもので、地域福祉、災害、ボランティア活動に使われています。「じぶんの町を良くするしくみ」というキャッチコピーのCMを最近よく拝見しますが、集まった募金の70%はその地域で使われています。

(赤い羽根、緑の羽根以外にも水色、黄色などの羽根をシンボルとしているものがあります。)

《問い合わせ先》

福祉人材課

027-255-6600

編集/発行 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

〒371-8525 (専用郵便番号)

群馬県前橋市新前橋町13-12

群馬県社会福祉総合センター内

TEL 027-255-6033(代表)

FAX 027-255-6173

URL http://www.g-shakyo.or.jp/

発行日 平成23年1月1日